（様式⑦-1　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立茶山台小学校
校長　　芳賀　敬子

中学校区におけるめざす子ども像
自己を高めようと努力し，自ら学び続ける子

令和6年度　重点目標
学校教育目標　「学ぶことを喜び，健やかな体と豊かな人間性をもつ子どもを育成する。」
重点目標　　（1）総合的な学力の育成　（2）豊かな心と健やかな体の育成　（3）家庭・地域と協働した教育の推進　（4）安全・安心な教育環境の整備

【確かな学びの現状】
・全体的に学習に真摯に取り組む児童が多い。
・新6年生は昨年度「すくすくウォッチ」での算数の結果が大阪府平均を上回ったが，堺市平均を下回っている部分も多く，学習内容の定着に課題が見られる。
・各種学力調査の結果から，文章の読み取りや資料の活用，自分の考えを表現することに課題があり，学びからの逃走を防ぐ意味でも，今後も交流を通じて学びを深めるとともに個別最適な学びや下位層への支援は必要だと考えられる。
・学校群の加配教員による高学年専科指導は，児童の90%以上が「授業が分かりやすい」と高い評価を受けた。

【豊かな心の現状】
・「人が困っているときは，進んでい助けている」の肯定的な回答は97%を超えている。
・「学校は楽しい」は94.6%と高水準ではあるが，前年度比は微減。

【健やかな体の現状】
・基本的な生活習慣がついていない児童が一定数いる。
・持久力，投擲は好調だが，柔軟性や俊敏さには課題がある。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （●重点とする取組　★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認 （～10月）		達成状況(年度末) 自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	総合的な学力の向上	自主的な学習習慣の定着	家庭と連携しながら自主的に学習する習慣の定着にむけ，「家庭学習のすすめ」をもとに自主学習に取り組む。	「自主学習に取り組んでいる」児童の割合 85%	学校教育アンケート	年度末		全学年で肯定的な回答が83.4%である。	A	肯定的な回答が85.1%である。	A	
		学習指導の改善	子どもが学ぶことを喜び，子どもが自ら学びを進める力を培うために，学びのコンパスを参考にした授業づくりを行う。	「学ぶことが楽しい」と答えた児童の割合80%以上	学校教育アンケート	年度末		全学年で肯定的な回答が89.6%である。	A	肯定的な回答が89.5%である。	A	・肯定的な回答が多いのは，学習の環境が良いと思われます。
			必要に応じて正しくパソコンを活用できる習慣作りにむけ，児童用端末活用系統表に基づく1人1台端末の活用する。	「パソコン活用の習慣作り」80%以上	学校教育アンケート	年度末		全学年で肯定的な回答が92.8%である。	A	肯定的な回答が87.8%である。	A	・ネットスキルだけでなく，リテラシーの教育も必要。
	学校群	学力向上	子どもの学習意欲の向上・基礎学力の定着を図るため，理科・算数の高学年専科指導を実施し，授業や家庭学習で反復練習に取り組む。	「（専科指導実施）教科が好き」「学んだことを自分から使っている」と答えた児童の割合80%以上	学校教育アンケート	年度末		全学年で肯定的な回答が80.4%である。	A	肯定的な回答が88.4%である。	A	
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	相手を思いやる心，簡単にあきらめない強い心の育成	●誰もが過ごしやすい集団作りのためにマイノリティの立場に立った実践を行う。	「思いやりをもって人に接している」と答えた児童の割合90%以上	学校教育アンケート	年度末		どの学年も95%以上が肯定的な回答。	A	肯定的な回答が98.9%である。	A	・思いやりの教育には大賛成。
			道徳的心情を高め，集団生活等への実践へとつなげ，思いやりの心の育成するため道徳教育を実践する。	参観やオープンスクールでの道徳授業の公開を年1回以上行う	実施	参観時		全学年で実施済。	A	全学年で実施済。	A	・社会生活に必要なソーシャルスキル教育やキャリア教育の観点が必要ではないか。
			自己と他者への理解を深めるため，啓発授業や支援学級との交流を行う。	自己と他者への理解が深まったと感じたと記述した児童のふりかえり	ふりかえりシート	授業・交流時		全学年で実施済。	A	違いを認め，互いに協力することや，みんながそれぞれに合った学習方法で学んでいることに気づくふりかえりが多くみられた。	A	・自己肯定感は高まっているのか？
			難しいことに挑戦したり，子ども同士が間違いや分からなさに寄り添ったりすることができるように協同的な学びを実践する。	「やると決めたことは，最後までやりとげようとしていますか」と答えた児童の割合90%以上	学校教育アンケート	年度末		学年が上がると肯定的な回答数が少し低くなる。	A	肯定的な回答が95%である。	A	・失敗してもOKという環境を作ってあげてほしいなと思います。
			児童の困り感などの早期発見・早期解決をめざすため，生活アンケート（年3回）の実施とその結果の聞き取りや，情報共有を行う。	「学校は楽しい」と答えた児童の割合90%以上	学校教育アンケート	年度末		高学年は肯定的な回答が91%。低学年のほうがやや低い。	A	肯定的な回答が93.4%である。	A	・子どもたちが，学校は楽しいと感じているのはすばらしい。
			日ごろのあいさつの励行を図るため，あいさつ運動などを行う。	「あいさつをしている」と答えた児童の割合90%以上	学校教育アンケート	年度末		肯定的な回答が95%以上。	A	肯定的な回答が97.2%以上。	A	・登下校の挨拶は大事だと思う。みんなで声をかけよう。
			★子どもたちに豊かな人間関係を築く基盤を形成するため，若松台学校群の取り組みによる小小，小中連携を行う。	「様々な人と学ぶことは楽しい」と記述した児童のふりかえり	ふりかえりシート	交流時		5年生：合同でのキャンプファイヤーでは積極的に他校の児童に近づく姿が見られた。その後の連音ではビデオメッセージの交換などで応援しあう姿が見られた。 6年生：連運の合同練習では競い合うことで互いを認め，良さを吸収する姿が見られた。また，本番では他の2校と互いを応援する声が聞こえてきた。 1年生：3小合同で秋見つけ。楽しく交流できた様子。	A	・その後，ファッションショーや総合的な学習で学んだことをオンラインも活用し，交流を実施。 ・若松台中学校の生徒が学習内容を発表し，交流。 ・若松台中学校の職場体験を受け入れ。	A	・保小のつながりも，もっとあれば良いかな。幼児の面倒を見ることで思いやりの気持ちが育つのでは？ ・学校群以外で地域での連携をもっとしてもらいたい。楽しいことでつながることができれば地域力の向上にもつながる。
	健やかな体の育成	体力の向上と基本的な生活習慣の定着	昨年度課題にあった柔軟性，俊敏性を高めるため，重点月間を設定して取り組む。	重点月間の取組を意識して運動に取り組んでいると答えた児童の割合80%	学校教育アンケート	年度末		全学年で肯定的な回答が71.1%である。	B	肯定的な回答が68.2%以上。	B	・休憩時間がより充実したものになれば良い。「遊び」をたくさんさせてあげられると良いですね。
			健康な生活を送るにはどうすればよいかについて学ぶために，発達段階に応じた保健指導を行う。	各学年において年3回以上実施	実施報告	年度末		1年生での歯磨き指導など発達段階に応じた内容で実施。	A	実施済み	A	
			●健やかな体と豊かな人間性をもち，睡眠の大切さを意識できるようにするために啓発を行う。	「普段睡眠について考えることがある」と答えた児童の割合80%	学校教育アンケート	年度末		低学年で82%程度。発育測定時に全学年睡眠についての啓発済み。	A	肯定的な回答が80.3%以上。	A	
学校独自の取り組み	信頼される学校	学校における安全指導・安全管理の徹底	自他の安全に気を配ることができる資質・能力を育てるために，安全学習を実施する。	学校安全計画にのっとり，安全学習に年3回取り組む。	児童の様子	年度末		どの避難訓練でも真剣に取り組んでいる。	A	実施済み ・保護者アンケート「学校は事故防止や児童の安全確保に努めている」肯定的回答93%	A	
		家庭，地域に開かれた学校づくりの推進	教育活動の現状と成果を地域や家庭に共有するため，学校HP，校報，学年通信などを活用した発信を行う。	「学校は，学校HP，校報，学年通信等を通じて，子どもたちの様子や連絡事項の発信に努めている。」と答えた家庭の割合　90%以上	学校教育アンケート	年度末		・平日のHPへのアクセス数は130回程度であり，およそ86%の家庭が閲覧している状況と推察できる。 ・教育委員会の職員採用に関するSNSで，本校のHPが紹介された。	A	・保護者アンケート「学校は，学校だより・学年だより・ホームページなどを通して，学習内容や子どもたちの様子の発信に努めている」肯定的回答95% ・システム更新後，パスワードをかけた運用において，平日の平均アクセス数は222回程度である。	A	・学校での様子を家庭に知らせるためにHPが活用されているのは合理的。
			★義務教育9年間の視点から効果的な教育活動を実践するため，中学校群の取り組みを通じて，若松台小学校，上神谷小学校，若松台中学校との連携や交流を深める。	実施状況 学校教育アンケート	実施状況 学校教育アンケート	年度末		・連運の練習では小小，小中で互いの児童を指導したが，子どもたちは他校の先生から教えてもらったことで入賞したことや，練習の場を整えてもらったことに感謝する声も出ていた。	A	・総合的な学習の時間に関する交流では，同学年，中学校との交流が実施できた。他校では，自分たちと違うことを学習していることを知り，お互いの学んだことを積極的に交流する姿が見られた。	A	・中学生が良きモデルとなる取り組み

校長より(年度末)
・若松台学校群としての教育活動は2年目に入り，小規模校ならではの運営の工夫として相互に職員が兼務する動きが活発になった。また，児童については，単学級がほとんどの本校で群の中で同じ学年の児童と交流することで刺激を受けたり，顔見知りができたりメリットを感じることが多かった。
・授業中は規律を守って，学習にまじめに取り組む児童の姿を見ているが，今後は子どもが学ぶことを喜び，子どもが自ら学びを進める力を培うために，学びのコンパスを参考にした授業づくりを更に進め，能動的に学ぶ姿を多く見られるようにしたい。
・睡眠については今年度，啓発をおこなったが，今後，自分で自分の生活を見直し，考える機会を多く持ちたい。

学校関係者評価者から(年度末)
・全体的に肯定的な回答が多い。
・体力の向上については，今年度，骨折するケガがいくつか見られたが体の使い方やボディイメージがついていないのかもしれない。発達段階に応じた体の使い方をすることで鍛えられるものだが，小さいうちにケガをさせないように育てていることも一因かもしれない。
・不安感が強い児童が多いようだが，失敗しても大丈夫だという学習環境を作ってあげてもらいたい。